

犬猫の心療内科から、心の健康のアドバイス

# 子犬を家に迎えたら



当たり前のことですが…、

- おなかいっぱい食べさせてね
- たくさん遊んで一緒にいてね（ずーっとゲージに入れないで！）  
↑↑これで体調が悪くなる場合は、ウンチも持って動物病院で診てもらおう
- 暮らしのルールを分かりやすく教えてね
- 吠えているのは意味があるよ、考えずに無視しないでね
- 「社会化」体験のことを勉強してね、外の世界を教えてね
- 避妊去勢手術について考えはじめてね
- 生後半年頃から自我が強くなっても、力づくや罰はやめてね

たったこれだけで予防できる問題行動もあります

この紙を心の健康を守るための参考に、体の健康についてはかかりつけの獣医さんと相談しながら育てていきましょう★

※子犬に1グラム単位で細かく食餌制限をしているケースが多いのですが、子犬期の空腹は飼主不信の元、食べ物を守ってやる、拾い食いするなど問題行動の芽にもなります。「0kg以上にならない犬種です」「フード量計算アプリなら確実」「犬は満腹中枢がなく無限に食べる」などの言葉を鵜呑みにしないでください。必要量は1匹ずつ違います。成長や遊びの量や質に伴って増えますし、大きくなるのはいいことです。しっかり食べさせ、フードを使ってトイレやルールを教え、たくさん遊びましょう。もしも食べると下痢をする、遊ぶとぐったりするような場合は動物病院で診てもらいましょう。

※「吠えたら無視しなさい」と言う人が多いですが、足りないものや恐怖を訴えている場合などは、無視しても吠える行動は治りません。食餌・運動・遊び・コミュニケーション・安心・体の健康、足りていますか？足りていなければまず満たしてやりましょう。

※社会化体験は心を育てる大切な時間。社会刺激への感受性が強い生後12週頃までに多くの社会的刺激を経験させるのが、犬が人の社会で暮らすうえでの理想です。犬の月齢や好奇心と警戒心の強さによっても、刺激への慣らし方が変わりますが、大切なのは「恐怖体験にしないこと」「毎日たくさん時間をかけてやること」。また、ワクチンが全部済むまで散歩しない場合、感染症予防は99%できて、社会化期は99%逃します。体の健康と心の健康、どちらも100%とはいきません、心を育てるために、最初のワクチンが終わったら子犬の健康状態を見ながら、抱っこ、または感染の危険のない場所から、社会化体験を始めましょう。

※性成熟以降は脳もオス化・メス化していくため、子犬の頃とは性格や行動が大きく変わることもあります。1歳前後までに去勢手術するとマーキングは少なくなり、避妊手術するとヒートに関連した気分や食欲の波などがなくなり、守るための攻撃行動も育ちにくいようです。早期の不妊手術によって性格も子犬っぽいまま成犬になる子が多い印象があります。不妊手術をするかしないかは、犬を迎えたときからリスクも含めて情報を集め、獣医さんとの対話を始めましょう。

※生後半年を過ぎると、「嫌なことは嫌！」と抵抗するようになる子もいますが、これは自然なことです。「嫌なこと」には必ず理由があるので、無理強いしたり罰したりせずに、「嫌ではない方法」「楽しい方法」でルールを教え直しましょう。